



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **4**
2017.7.10

信州ESD
コンソーシアム
事務局

目次：西小学校ESD研修会/ユネスコスクール交流会/ESD支援センター/ESD小辞典/お知らせ など

7月22日学びセンターで信州ESDコンソーシアムの紹介がされます、ご参加ください

8月27日研修会に大牟田ESDコンソーシアムから市教育長さんをお招きし活動の紹介をいただきます

大牟田市は、市長を本部長として市全体でESDを推進する仕組みづくりができています。どのような活動が学校で行われているのか、どのように仕組みが構築されたのかなど貴重なお話が伺えます。また、信州ESDコンソーシアムの活動を総括し、今後の活動方針を議論します。ご予約ください。

◎午前10時より12時：ESD研修会（無料公開）：信州大学教育学部大講義室

◎午後1時より3時：信州ESDコンソーシアム通常総会：信州大学教育学部中校舎2階



8月6日北信越ユネスコスクール交流会に、長野から6名が参加します

金沢市で北陸ESDコンソーシアムの主催で、長野県と新潟県のユネスコスクールおよびESD関係者に呼びかけがあり、初めての北信越ユネスコスクール交流会が開催されます。信州ESDコンソーシアムからは、信州大学教育学部・山ノ内西小学校・中野西高校・長野西高校の教員が参加し、より広域の交流、連携の輪が広がることが期待されます。

6月18日「タビビトーク!!vol.1」が開催されました

長野ユネスコ協会青年部つながる主催の夢サミット企画「世界一周した高校生に感化された学生がこの春日本を飛び出した!!タビビトーク!!vol.1」が開催されました。参加者は社会人3名、大学生9名、高校生2名の14名でした。「旅人×トーク」をテーマに、この春休みに海外へ旅に出た学生三人がスピーカーとなり、旅での体験談や感じたことをそれぞれ紹介し、そこから生まれた疑問をアットホームな雰囲気の中で考え、みんなで異文化理解について深めました。旅大好きな高校生や海外経験のある社会人の方、



ふらっと寄ってくれた大学生、いろいろな人に来ていただきました。また、今回はFacebookでのライブ配信も行い、遠方の当日来られない方にもイベントの様子を発信しました。以下学生旅人3人の紹介です。

●大内瑠寧(教育学部英語教育コース3年生):イギリス、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンに約一か月、自身の英語力を高めるため各地のミートアップイベントに参加しながら旅をした。北欧の美しい景色を写真に撮った時に気づいた「写真加工問題」や、観光地に行ったときに気づいた「本物に初対面すること」等、参加者みんなと考えました。

●宮脇祐貴(教育学部英語教育コース3年生):文部科学省のプログラム「カケハシプロジェクト」に参加し、アメリカへに約一週間滞在。現地の高校生や大学生と交流、日本文化の素晴らしさを発信しました。現地の学生にどの日本文化を発信するかを選ぶときに気づいた「誇れる日本文化とは…?」や、旅費や滞在費を文部科学省から出してもらったことから「もらった返す」など様々なことを語り合いました。

●水戸和義(教育学部現代教育コース3年):発展途上国や国際協力に興味を持ち、現地で人々がどのような生活をしているか体験するためにネパールに一週間強滞在。日本人の行ったことのない村の生活の様子を伝えながら、「発展するって…」を参加者と考えました。

6月22日山ノ内町西小学校でESD研修会が開催されました

ユネスコエコパークの山ノ内町では、すべての小中学校がESD活動に取り組んでいます。ESDはエコパークの目指す「持続可能な地域づくり」の鍵になると考えているからです。そこで教職員向け第一回ESD研修会を山ノ内西小学校で開催しました。講師は、中部地方ESDセンターにご紹介いただいた目白大学人間学部児童教育学科教授の石田好広先生。以前に東京都内の小学校の校長も務められていた方で、「ESDカレンダー」の仕掛け人でもあります。参加者は西小学校教員12名他計19名でした。



研修では、ESDのこれまでの経緯と必要性、ESDの構成概念や重視する能力や態度、グローバル・アクション・プログラム(GAP)と学校教育との関わり、新しい小学校学習指導要領とESDとの関連、小学校での教科連携と地域の特色を活かしたESD実践、国連持続可能な開発目標(SDGs)との関わりなど、盛りだくさんの内容について解説いただきました。

中でも印象に残ったのは、ESDカレンダーの活用についてで、ESDカレンダーを職員室の壁に貼り、授業の度にコメントを書いて、見直すというもの。教科横断的なカリキュラムの中で、ESDの視点を意識するための「見える化」ツールとしての位置づけと、子どもの自発性を引き出す『予定調和的ではない』授業の両立は、目からうろこが落ちる思いでした。

最後の挨拶の中では教頭先生が、ESD大賞を目指すと言われ、信州ESDコンソーシアムは西小学校のESD大賞受賞を全力で応援していきます。

6月30日～7月2日国際ユース環境会議が開催されました

6月30日～7月2日に第6回国際ユース環境会議が長野市小田切の青少年練成センターで「フードロス」をテーマに開催されました。長野市内を中心にしたユース(中高大学生)23名と講師スタッフ17名、計40名で大雨でしたが、「英語で話そう」「未来への手紙」など20ものワークショップをこなし、「野生動物の現状と課題」の講義を聴いてからのジビエによるBBQなどで楽しく交流しました。異年齢集団だからこそその効果がみられた今年の国際ユース環境会議でした。

7月3日中部地方ESD支援センターが開所しました

環境省と文科省の共同事業として、昨年「ESD活動支援センター」が開設されました。それを受けて、本年度は全国8箇所に「地方ESD支援センター」が設置されました。これにより長野県と北陸3県、中部3県のESDの取組をつなぎ、全国世界と連携して各地域の実践が豊かになるようなサポート体制が構築されました。

企業もその社会的責任として、「持続可能な発展」の理念の実現に立ち上が

るべくESD宣言をおこなっています。まだ少ない数ではありますがCSRの中心的活動として今後とも広がることが期待されます。以下、その基本認識と行動指針です。

1. 基本認識(1から6)(1)「持続可能な発展」の理念の実現には、すべての組織や個人が参画し、共通認識のもとにそれぞれが主体的に行動することが必要である。組織を担う主体は「人」であり、従ってすべての人に対する教育

=ESD(持続可能な開発のための教育)が、そのカギを握る。(2)とりわけ、企業が社会や環境に与えるインパクトが増大するにつれて、企業に責任ある行動や持続可能な発展への積極的な行動を求める声が高

企業によるESD宣言

ESD小辞典



まっている。略(4)ともするとESDは、学校教育の枠内のみでとらえられがちであるが、それ以外の幅広い社会教育・生涯学習の視点も同様に重要である。特に、持続可能な発展に果たす企業の役割の重要性が高まるに連れて、「企業とESD」は、重要な視点となっている。

2. 行動指針(1から6)(2)未来を担う若者・子どもや一般市民などを対象に、学校教育や生涯教育においても、企業ならではのリソースを生か

した多様な社会貢献活動を通じて、ESDへの実践を積極的に行う。略(6)志を同じくする国内外の他のステークホルダーと連携する。とりわけ、NPOやNGOなどの市民社会組織との対話や協働を積極的に行う。



コーディネーター通信

活動の現状をお知らせします

- 2017.6.17 立教大学ESD研究所の10年 記念講演会にいらっしゃいました。以下講演内容と感想、提案です。

立教大学 ESD 研究所の
これまでの10年、
これからの10年

—ESDをめぐる国内外の動向を踏まえて—



1998年IGES(国際地球環境教育研究)、1999年TEMM(日中韓環境大臣会議)、2003年ESD-J設立、その提言により2005年国連ESD10年始まる、2007年立教大学ESD研究センター設立、HESDフォーラム(岩手など50大学参加)開始、2015年GAP開始、2016年国連SDGs開始・2012年研究所に改称、地域におけるESD導入(池袋学など各地と連携、飯田市とも連携予定)、HESD研究および学内ESD推進、など多様な活動を展開している。今後の課題として、資金や大学間ネットの維持拡大などがあげられた。

感想 様々なESD活動を当事者から聞くことができ、ESDの日本センターとしての役割を果たして尽力されていることが理解できた。当コンソーシアムとして、立教大学ESD研究所と共同研究が実施できれば双方にメリットがあるのではないかと思います。(渡辺隆一)



信州ESD通信
No.4 2017.7.10

発行:信州ESDコンソーシアム事務局 編集:渡辺隆一
〒380-8544長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局:白岩/大山 TEL026-238-4034 kyoeshd@shinshu-u.ac.jp